

考古学への誘い

—埋蔵文化財の発掘調査より

東京都埋蔵文化財センター 小葉一夫

埋蔵文化財センターの役割

土の中に埋もれている「遺跡」を発掘調査することによって、歴史を解明していくのが考古学である。その発掘調査によって得られる考古学資料は、国内全域に普遍的に存在し、とくに文字などの記録では知ることのできない、あるいは文字に記録されない人々の生活や地域の歴史と文化を具体的に語ってくれる貴重な資料である。

現在その発掘調査の仕事を中心に行っているのが、1970年代後半から80年代にかけて全国の行政単位でつくられた埋蔵文化財センターである。高度成長期の開発事業に伴って発生した発掘調査に対応するための組織として機能してきたが、全国的規模でこれほどまでの密度で遺跡の調査が実施された国は世界的にもほとんど例がなく、日本の埋蔵文化財に対する関心と知識を一気に高めてきた機関ともいえる。

ただし、発掘調査のほとんどは、開発に先立って実施されるため、調査が終了すると同時にその遺跡は破壊される運命にある。そのため「遺跡を残せないのですか」といった市民の声をよく聞く。開発と保存は永年の問題でもあり、常にその点を模索しながら調査を行っている。発掘調査中には、遺跡の見学会などを行い、多くの方々に遺跡の大切さを理解してもらい、さらにその発掘調査の成果を普及活動等を通して、広く国民に還元してい

くことも発掘調査者の重要な役割でもある。

遺跡に優劣はなく、どれも先人が残してくれた貴重な歴史の痕跡である。その歴史を紐解いていく役割が発掘調査を通して多少でもできればと思っている。

発掘調査で歴史の解明

日本全国には、正確な遺跡地図が作成されており、遺跡がある土地を開発するときは、文化財保護法によって原因者負担の原則で遺跡の調査が義務付けられている。近年は減少傾向にあるがそれでも全国で年間1万件近い発掘調査が行われている。ちなみに昨年度、都内では200件以上の発掘調査が行われた。このことは、新鮮な歴史の教材が身近なところにあることを示しているといえる。

発掘調査は真夏の炎天下の中でも、冬の木枯らしの中でも土を掘り続ける体力勝負の仕事である。おかげで調査員のほとんどは腰を悪くしている。また、調べるものが土器や石器といった細かいものなので、造成工事のように大きな機械を使って土を削ることができない。土に向かって人海戦術による地道な作業となる。そして、土の中から何千年も前の縄文土器や石器を掘り出し、実際に触れた時、古代へのロマンが広がる貴重な感動を得ることができる。

ただし、土器や石器はそれだけでは何も語ってくれない。その語らぬ遺物・遺構から言葉を引き出し、ものを語らせるのが考古学



職場体験での発掘調査



火起こし体験

の大切な役割である。そのためには、発掘調査時での細かな記録と観察が必要となる。単に土器が出ましたというだけでなく、どこからどのように出土したのか、そして何故そこから出土したのかを考えていくことによって初めて土器が語ってくれる。1点の土器が語ってくれることもあるが、何百何千の土器を調べてようやく分かることもある。時間と根気のいる仕事でもある。

また、考古学は人間の歴史と生活を明らかにする学問である。時代を調べるには土器を年代順に並べる手法のほかに、地質学や自然科学の分析が必要。衣食住といった生活を明らかにしていくには民俗学、建築学、植物学などといった他の学問との協力が不可欠であり、その意味からも考古学は人間を調べるきわめて総合的で魅力的な学問であるといえる。

そんな貴重な仕事を中学生が体験することができるチャンスがある。近年各地域で積極的な取り組みがなされている「職場体験」を通しての発掘調査への参加である。埋蔵文化財センターが調査している遺跡で、受け入れ側の条件さえ整えば実際に発掘を体験することができる。

体験教室を通しての歴史学習

埋蔵文化財センターのもう一つの重要な役

割として、発掘調査によって得られた膨大な資料とその分析に基づいて解明された歴史を広く国民に還元することがある。具体的には、埋蔵文化財センターの有効利用と歴史教育の充実という点にある。

東京都埋蔵文化財センターでは、狭いながらも展示施設を有し、発掘調査された遺物を一般に無料で公開している。また、博物館施設ではないので組織立った十分な運営はできていないが、小中学校の見学も多いことから、各種の「体験教室」の活動にも力を入れている。中でも人気メニューは、「縄文土器作り」や「勾玉作り」「火起こし体験」などで、本物の出土品を実際に見ながら過去を体験し、新しい発見を得ることができる。さらに、これらの教室を基に学校に出向く「出前授業」も始めており、埋蔵文化財センターを活用した学校教育の可能性が広がりつつある。

最後に、現在の小学6年の歴史教科書から歴史の始まりである旧石器・縄文時代の記述が完全に削除されている。とくにこの時代は考古学以外では語れない時代だけに、発掘調査の成果を生かし、正しい歴史認識に立って学習していただくことを願ってやまない。

常に物事の始まりにこそ基本がある。